

■新校の概要

所在地 長野県中野市三好町 2-1-53
 敷地面積 約 30,429 ㎡
 (現 中野立志館高等学校敷地)
 建蔽率 60%
 容積率 200%
 用途地域 第一種中高層住居専用地域 (過半)
 / 第一種住居地域
 防火地域 建築基準法第 22 条指定区域



■中野立志館高校について



昇降口・校舎



上空写真

■学校概要

・所在地：長野県中野市三好町2-1-53

・学校の特徴：その起源を農蚕学校に持ち、農商高校の時代もあった中野実業高校と女学校に起源をもつ中野高校が統合して出来ている。現在も総合学科で、商業・工業（機械電気・土木建築）・看護福祉などの系列をもち、生徒の興味によって多様な学びが用意されている。また探求学習などを通し、地域との連携にも力をいれている。各学年5クラスの全日制と定時制を併設。

■中野西高校について



校門・校舎



上空写真

■学校概要

・所在地：長野県中野市西544-1

・学校の特徴：高校進学者の増加に伴い、他地域へ進学せざるを得ない生徒が急増する状況から、県立の普通科高校の地元設置を求める声が高まったことを受け、1984年に開校した比較的新しい高校である。1994年に英語科設置（2015年に廃止）、2003年にはフロンティアスクールの指定（3年間）、2015年には県内初のユネスコスクールに承認されるなど、教育に力をいれる。ESDクラブ活動では、「中西カフェ（丸山珈琲と協力しオリジナルブレンドのフェアトレードコーヒーの開発や販売など）」「ABMORI活動（志賀高原での育苗・植樹活動など）」「バラまつりへの参加」といった地域企業や地域に飛び出している活動も積極的に実施している。

■「学びのイメージ」の具現化に向けた施設整備の骨子

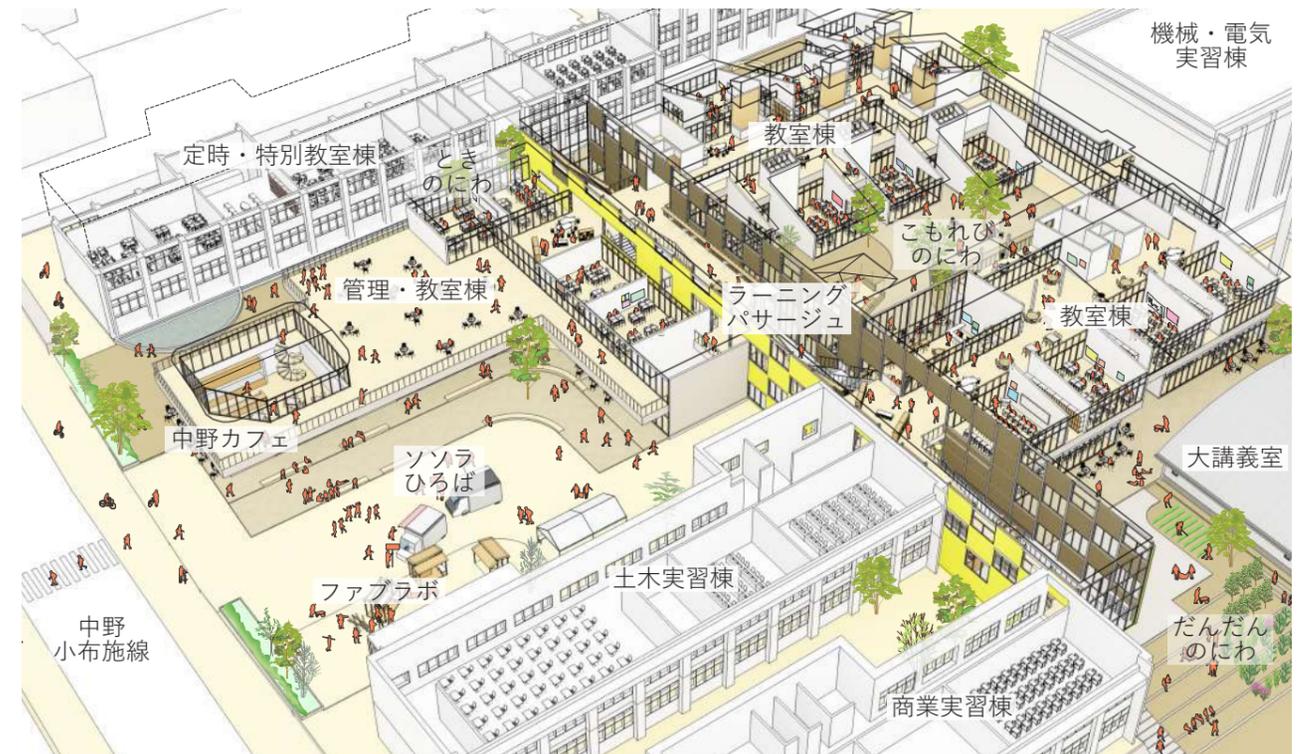
かつて天領中野として栄えた由緒ある地に立つ中野総合学科新校(仮称)では、地域から世界まで幅広い視野をもって他者と共同し、未来に挑戦できる人材の育成が期待されている。ここでは、専門性を深めていく総合学科の特徴と、地域や世界へとつながるユネスコスクール・ESD教育の特徴を空間化することが求められる。地球規模で考え、域社会で行動を起こす新しい高校の姿「総合学科×ESD」の実現を目指し、4つの空間的アイデアを新校施設整備の骨子とする。

1. まちに接続し、開かれた学校

学校の玄関口には地域イベントにも対応した多目的の「ソラひろば」を設け、向かいのソラホール、市役所と連携して中野のパブリックスペースの核を構成。西高校で実践を引き継ぐ「中野カフェ（地域連携協働室）」、立志館高校の専門性を活かす「ファブラボ」を、両校統合の象徴としてひろばに面して配置する。

2. 交流・表現の軸「ラーニングパサージュ」

多様な科目専攻の生徒が同じ時間を過ごす総合学科の特徴を活かし、出会いや発見、知恵の交換が生まれる「ラーニングパサージュ」を新校の軸に据え、新旧の校舎を内部空間でつなぐ。中野の南北軸を表徴する2層吹抜けの空間に、個別最適の学びから協働の学びまで、様々な学びのシーンが展開する。



南西上空からの鳥瞰イメージ。中央の南北に細長い空間が「ラーニングパサージュ」

3. 総合学科の学びに対応した学習空間

必修科目がメインの1年生はESD（持続可能な開発のための教育）の基礎を落ち着いて学ぶ「家」のような安定した学習・生活環境とし、選択科目がメインとなり移動が多くなる2・3年生にはフレキシビリティの高い教室、ロッカールームや発表ギャラリーを確保するなど、総合学科特有の段階に応じた学びに対応できる学習空間をきめ細やかに計画する。

4. 横断的な交流を促す「にわ」

校舎の間には、「こもれびのにわ」「だんだんのにわ」といった多様な性格の「にわ」を計画し、建物内だけでなく外部空間も大事な学びの空間として設える。上下足一足制とすることで、現状の上下足混在状況を解消し、校舎内外を連続的に使うことを視野に入れる。授業間の空きコマや休み時間を過ごす憩いの場として、さまざまな交流の機会を生み出す。

ラーバンデザインオフィス・小林・細谷共同企業体

■ 配置・平面計画

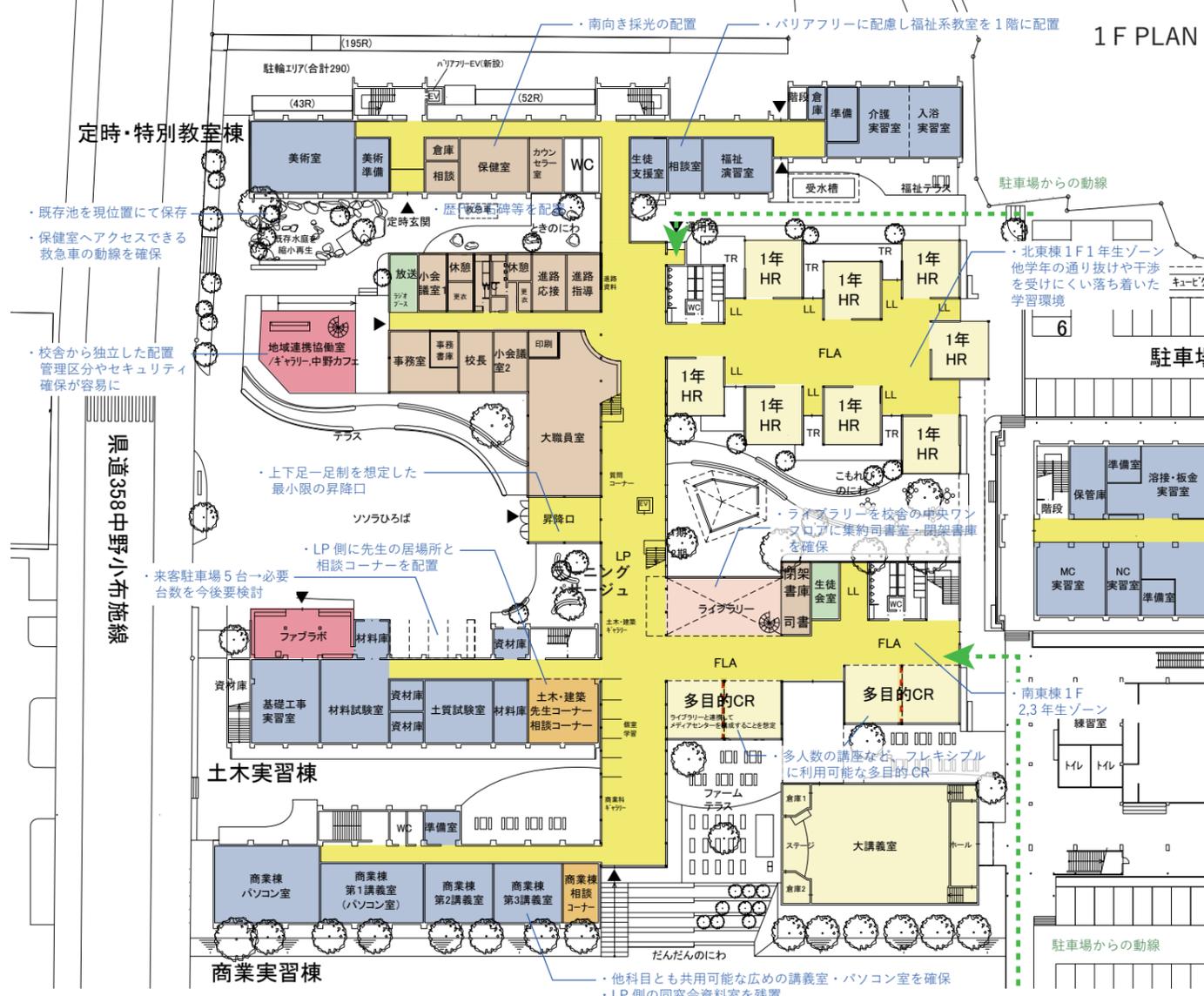
○ 生徒同士、先生—生徒間の交流を促し、学びや表現の舞台となるワンルーム



自習のためのカウンターデスクなどが充実した2階のイメージ

大きなワンルームの中に2階床が浮かぶような空間構成

授業間移動の多い総合学科の特性を考慮し、校地中央に南北に長い2層の動線空間「ラーニングパサージュ」を配置し、新旧の校舎を内部空間でつなぐ。ラーニングパサージュは動線を処理する廊下としてだけでなく、教室でも廊下でもない第3の学びの空間としての利用を想定し幅8m程の幅広のワンルーム空間として計画。教室から遠征して小さめの講座を開いたり、授業や探究の成果物を掲示したり、各専門教科での制作物を展示したりするなど、新校の様々な活動に満ちた場所となる。



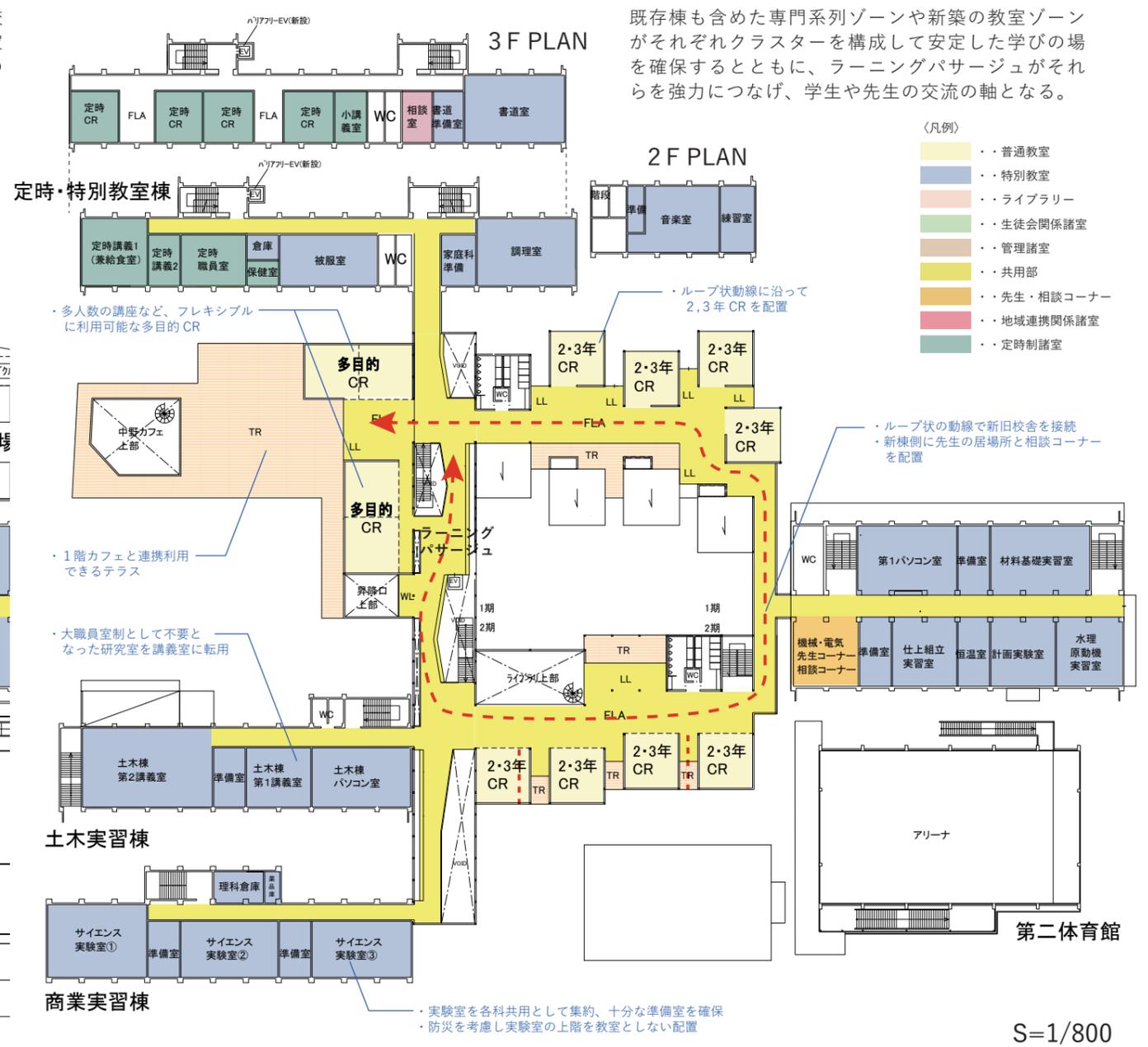
○ 新旧をつなぎ、さまざまな専門科をつなぐアクティビティの骨格



1年生ギャラリーや大職員室が顔を出すラーニングパサージュ1階

専門系列の学びが展示される土木・建築ギャラリー

既存棟も含めた専門系列ゾーンや新築の教室ゾーンがそれぞれクラスターを構成して安定した学びの場を確保するとともに、ラーニングパサージュがそれらを強力につなぎ、学生や先生の交流の軸となる。

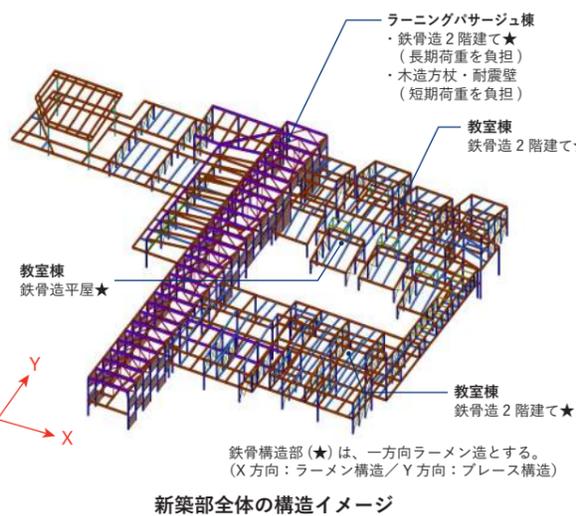


S=1/800

■ 構造計画の基本方針

<新築部>

- ・垂直積雪量100cm以上の荷重を受ける耐久性を確保しながら、降雪による事故を起こさない精度の高い建築とすること、また、既存校舎が混在する難易度の高い敷地条件における現場工程の短縮化等を考慮し、新築部には鉄骨造を採用する。
- ・ラーメン構造により教室とFLAの間の耐震要素を無くし、教室を超えて拡張した開放的な学習・生活空間を実現する。教室間の壁についても2教室の一体利用など、将来のフレキシブルな空間利用を見据えて適切な耐震要素の配置を計画する。
- ・新築部を全て鉄骨造の「耐火建築物」とすることで防火区画を減らし、一体的な空間を連続させることができるため、移動の多い総合学科に適した構造形式と言える。将来的な校舎の機能改変にも柔軟に対応可能。



| <教室棟> | | <ラーニングパサージュ棟> | |
|-------|--------------------------|---------------|-------------------------------------|
| 構造種別 | 鉄骨造 | 構造種別 | 鉄骨造 |
| 架構形式 | X方向：ラーメン構造 Y方向：ブレース構造 | 架構形式 | X方向：木造方丈付き ラーメン構造 Y方向：木造耐力壁構造 |
| 基礎形式 | 未定（地盤調査後に決定） | 基礎形式 | 未定（地盤調査後に決定） |
| 階数 | 地上2階建 | 階数 | 地上2階建 |
| 規模 | 延4,106㎡ | 規模 | 延1,126㎡ |

<改修部>

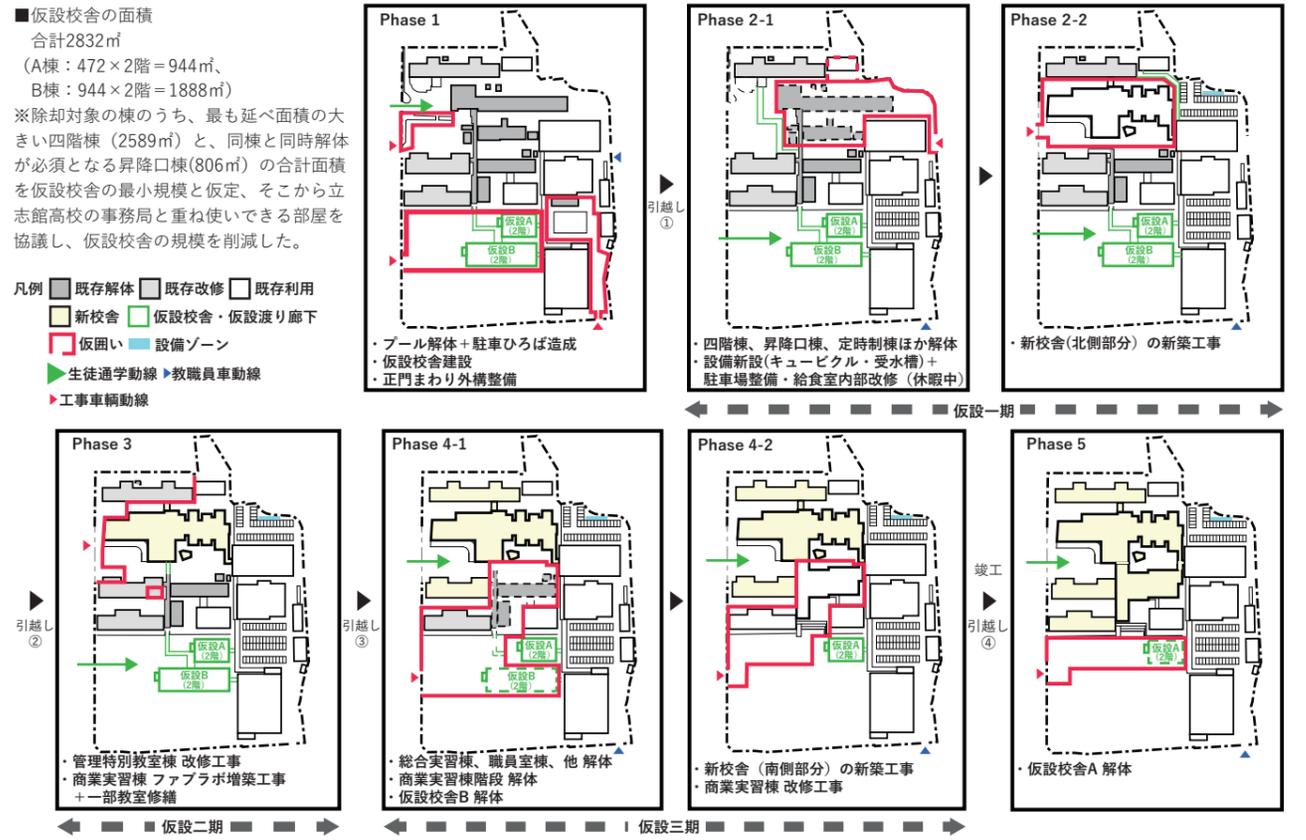
- ・既存活用する校舎のうち、管理特別教室棟、土木実習棟、商業実習棟、機械・電気実習棟は新築棟と内部空間で接続する計画となるが、接続部はエキスパンション・ジョイントとして鉛直力および水平力が伝達しないようにする。いずれもH2年以降の新耐震設計法制定以降の建物だが耐力壁一部撤去となる場合、耐震診断が必要となり、耐震補強が必要となる場合がある。

■ 設備計画の基本方針

- ・本事業が求める新たな学びと空間の環境整備をより高いレベルで実現するために、快適性から安全性、経済性など、あらゆる面を勘案した総合的に最適な設備計画をおこなう。
- ・これからの学びの場にふさわしい省エネルギー性や意匠性に配慮した計画にするとともに、ネットワークを中心とした将来の変化が予測されるライフラインなどの更新性も考慮した計画とする。
- ・本計画は新旧校舎の融合に加え、学校運営をおこないながらの建て替え工事となるため、工事中の運営に支障をきたさない計画とするだけでなく、旧校舎の更新性をも考慮した計画とする。
- 快適性、利便性
 - ・学生や教職員、交流に訪れた近隣住民等の快適性、利便性に配慮した計画とする。
 - ・冬季の厳しい気象条件を十分に考慮した計画とする。
- 保守、更新性
 - ・管理運営、保守管理及び将来の更新・拡張が容易となる設備方式を選択する。
 - ・機器設置位置や配管配線ルートなどにおいても保守性、更新性を考慮し、新旧校舎をつなぐラーニングパサージュを中心とした配管配線計画とする。
- 周辺環境、意匠性
 - ・周辺環境との調和、建物の美観へ配慮した意匠性をそこなわない設備計画する。
- 防災、防犯、安全性
 - ・関係法規を遵守した利用者に分かりやすい防災計画をおこなう。
 - ・既存警備システムを踏襲した防犯対策をおこなうとともに安全面の死角がない設備計画とする。
 - ・工事中においても安全性が損なわれないよう、防災機能を維持しながら建て替えをおこなう計画とする。
- 環境、省エネルギー性
 - ・エネルギーの効率化と省エネルギーに配慮した設備とし、ZEB Readyの達成を目標とした計画をおこなう。
- 経済性、コスト面
 - ・イニシャルコストだけでなくランニングコストの軽減も考慮した計画とする。
 - ・建て替えにともなうライフラインの盛替えについても必要設備を十分に把握し、経済性を考慮して計画する。

■ 仮設計画の検討

- ・工期を3期に分割（Phase 2～4、1と5は仮設校舎の建設および解体）し、既存校舎を最大限使用しながら工事を行うことで、仮設校舎の規模を抑える計画。
- ・工期を分割することで、早期の新築校舎の部分共用開始が可能。生徒が仮設校舎だけで高校生活の3年間を過ごすことがないよう配慮している。特に北側から工事を進めることで、一期工事完了後は普通科の普通教室はすべて新築棟に移ることができる（普通教室の供用開始を早める）ことを重視した。新校舎の顔となるソラひろばも一期工事後には供用開始できる。
- ・仮設校舎はグラウンド北東側に分棟形式で二棟を建設する計画。延べ面積2000㎡以上及び3階建て以上となると基準法により求められる要件が増え、コスト増となるため、その要件を避ける計画としている。



■ 事業スケジュールの検討

既存インフラ設備の配置を考慮し、既存校舎の北側からローリング建て替えを進めていく方針のもと、事業スケジュールを検討。

| | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 | 2031 | |
|----------|------|------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------------|
| | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | R11年度 | R12年度 | R13年度 |
| 設計 | 基本計画 | 基本設計 | 実施設計 | | | | ●開校予定 | 完全運用★ |
| 解体工事 | | | プール解体 | 既存解体① | | | 既存解体② | |
| 新築(改築)工事 | | | | | 新築工事(1期北区画) | 引越 | | 新築工事(2期南区画) |
| 改修工事 | | | | | | 改修工事① | 引越 | 改修工事② |

※今後の調査や協議等により工程・工期が変動する場合がある。